

## 出エジプト記14章 「エジプトの死」

### 1A パロの追跡 1-9

1B 主による閉じ込め 1-4

2B 自ら率いる精鋭部隊 5-9

### 2A 主の戦い 10-20

1B しっかり立つ信仰 10-14

2B 紅海への浸水 15-20

### 3A 紅海の分かれ 21-31

1B 渡海 21-25

2B 水の戻り 26-31

## 本文

私たちの聖書の学びが、ついに分かれた紅海をイスラエルの民が渡るところに来ています。私たちは出エジプト記から、「この世に住む神の民」について学んでいっています。エジプトが世を表していて、そこからイスラエルの民が出て行くことは、神がご自分の民を世から贖い出すことを意味しています。ですから紅海が分かれるところは、私たちにとって非常に大切な真理を伝えてくれています。

### 1A パロの追跡 1-9

1B 主による閉じ込め 1-4

1 【主】はモーセに告げられた。2 「イスラエルの子らに言え。引き返して、ミグドルと海の間にあるピ・ハヒロテに面したバアル・ツェフォンの手前で宿営せよ。あなたがたは、それに向かって海辺に宿営しなければならない。3 ファラオはイスラエルの子らについて、『彼らはあの地で迷っている。荒野は彼らを閉じ込めてしまった』と言う。4 わたしはファラオの心を頑なにするので、ファラオは彼らの後を追う。しかし、わたしはファラオとその全軍勢によって栄光を現す。こうしてエジプトは、わたしが【主】であることを知る。」イスラエルの子らはそのとおりにした。

前回私たちは、13章の最後のところでイスラエル民が既にエジプトから出て行っている場面を読んできました。過越の祭り、種無しパンの祝い、また長子を捧げることについて神が指針を与えられて、そして彼らがペリシテ人の地への近道ではなく、紅海に向かう荒野の道を歩ませたところを見ました。今、荒野の端のエタム、つまりエジプトの国境のところまで連れて来られています。この時から、彼らは主が昼は雲の柱で、夜は火の柱で共におられるようになりました。

このようにしてエジプトを出るはずだったのですが、神は引き返させています。エタムからそのま

まシナイの荒野への道を行けばよかったのに、ミグドルという山脈と海の間を通らせませす。ミグドルは山脈になっており、ピ・ハヒロテはその山麓と山麓の間に囲まれた細いところだと考えられます。つまり、出入り口が一人だけ、ということです。そして紅海に阻まれています。ですから、パロにイスラエルを捕えに行こうという気にむしろさせるように仕向けた、ということです。そして、ファラオがイスラエルの民を再びわが物にしようと追跡するように、神が敢えて仕向けておられるのです。しかも、全軍を率いてイスラエルを捕えるようにさせるのです。さらに、4 節にこれまでも出てきた、「わたしはファラオの心を頑なににする」という言葉が出てきます。神はファラオの強情さを敢えて用いて、ご自分の栄光を現そうとしています。



主はもちろんここで、「おびき寄せ作戦」を取られているのです。イスラエルの民を追跡するように仕向け、そして彼らを全滅させることによって、ご自分の栄光を示そうとされています。もし仮に、単にイスラエルの民がそのままエジプトを出て行ったらどうなるのでしょうか？もしかしたら、エジプトがシナイの荒野まで追って来るかもしれません。いわゆる自分たちを奴隷として酷使したエジプトの亡霊みたいなものに苦しめられるかもしれません。神は、確実に、完全に彼らを支配していたエジプトに対して死を宣告し、事実、その死をもたらすことによって、イスラエルが、確かに自分たちがエジプトから救われたことを確認させるようにしておられるのです。

主は、死をもたらすことによってご自分を救いをもたらされます。イエス様が死なれることによって、よみがえりの命をもってご自分の栄光をもたらされます。ラザロが死んだのに生き返ったことを思い出してください、イエス様は敢えて二日留まられて、ラザロが確実に死ぬようにされました。それによって、神の栄光をラザロと、マリアとマルタにお見せになりたかったのです。このように、私たちは死を通ることによって、よみがえりの力を体験するようにされます。パウロが、死ぬほどの危険を宣教旅行の中で経験しましたが、このように話しています。「Ⅱコリ 4:10-12 私たちは、いつもイエスの死を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです。私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されています。それはまた、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において現れるためです。こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働いているのです。」あるものがなくなる時は、私たちはじたばたしてしまいます。まるで神が自分たちに敵対しているかのように感じるかもしれません。けれども、実はその反対で主がかえって味方しておられて、ご自分の栄光を現すようにしておられるのです。

## 2B 自ら率いる精鋭部隊 5-9

5 民が去ったことがエジプトの王に告げられると、ファラオとその家臣たちは民に対する考えを変えて言った。「われわれは、いったい何ということをしたのか。イスラエルをわれわれのための労役から解放してしまったとは。」6 そこでファラオは戦車を整え、自分でその軍勢を率い、7 選り抜きの戦車六百、そしてエジプトの全戦車を、それぞれに補佐官をつけて率いて行った。

ファラオがイスラエルの民を出て行かせた時、それは自ら望んで出て行かせたのではないことを思い出してください。長子が死んだので、強制的に出て行かせたのです。したがって状況が少しでも良くなれば、また引き戻して奴隷にしたいという欲が出てきます。労働力として、自分たちの物にしたいですから。悪魔は、事あらば、神の民をなんとかして自分の所有に引き戻したいと願います。古い生活に引き戻そうと躍起になります。私たちが、以前の罪に引き戻される誘惑を受けますが、それによって奴隷になってしまうのです。

興味深いことに、奴隷の身分であったイスラエル人を捕えるために、国の最高級の精鋭部隊を送り込みました。そして、ファラオ自身が出動しています。極めて滑稽ですが、それだけ恐れているということでしょう。ここで私たちが思い出さないといけないのは、私たちにあるキリストの力は、この世にある血肉のものよりも力があるということです。「Ⅱコリ 10:4 私たちの戦いの武器は肉のものではなく、神のために要塞を打ち倒す力があるものです。」

そして今の霊の戦いだけでなく、終わりの日の戦いにおいてもイスラエルの民は、世界中の軍隊が集まって来るところからの救いによって救われます。そこでも、その軍隊を召集させているのは、他ならず神ご自身であることが書かれています。「黙 16:12-16 第六の御使いが鉢の中身を大河ユーフラテスに注いだ。すると、その水は涸れてしまい、日の昇る方から来る王たちの道を備えることになった。また、私は竜の口と獣の口、また偽預言者の口から、蛙のような三つの汚れた霊が出て来るのを見た。これらは、しるしを行う悪霊どもの霊であり、全世界の王たちのところに出て行く。全能者なる神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを召集するためである。——見よ、わたしは盗人のように来る。裸で歩き回って、恥ずかしい姿を人々に見られることのないように、目を覚まして衣を着ている者は幸いである——こうして汚れた霊どもは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる場所に王たちを集めた。」

8 【主】がエジプトの王ファラオの心を頑なにされたので、ファラオはイスラエルの子らを追跡した。一方、イスラエルの子らは臆することなく出て行った。9 エジプト人は彼らを追った。ファラオの戦車の馬も、騎兵も軍勢もことごとく、バアル・ツェフォンのあるピ・ハヒロテで、海辺に宿営している彼らに追いついた。

イスラエルは、ここまで信仰を持っていました。過越の祭りの命令も彼らは守り行いました。ここにおいても、彼らは主がエジプト軍を阻んでくださるだろうと思っていたことでしょう。ところが、彼らが海辺で宿営しているところまでやって来たのです。

## 2A 主の戦い 10-20

### 1B しっかり立つ信仰 10-14

10 ファラオは間近に迫っていた。イスラエルの子らは目を上げた。すると、なんと、エジプト人が

彼らのうしろに迫っているのではないか。イスラエルの子らは大いに恐れて、【主】に向かって叫んだ。11 そしてモーセに言った。「エジプトに墓がないからといって、荒野で死なせるために、あなたはわれわれを連れて来たのか。われわれをエジプトから連れ出したりして、いったい何ということをしてくれたのだ。12 エジプトであなたに『われわれのことにはかまわないで、エジプトに仕えさせてくれ』と言ったのではないか。実際、この荒野で死ぬよりは、エジプトに仕えるほうがよかったのだ。」

民は初め、正しく反応しました。「大いに恐れて、【主】に向かって叫んだ」とあります。ところが、主が救ってくださることを待つことなくして、モーセに向かって不信を述べました。かつて、ヤコブもこの過ちを犯しました。自分がアラムから故郷のカナン人の地に戻る時に、エサウが四百人を連れてやってきていることを聞きました。そして彼は主に叫んで祈りましたが、その後、自分でエサウを宥めるための贈り物を用意しました。ここでもせっかく主に叫んだのに、目に見えるもの、モーセという指導者に頼ってしまったのです。

まず、「荒野で死なせるために、あなたはわれわれを連れて来たのか」と言っています。エジプトという「世」に彼らは住んでいたわけですが、その救い出された先が「荒野」だったのです。私たちも、キリストにある救いを手にしたら、その後にかえって試練が来ることが多いです。けれども、その間も主がともにおられて、主を知ることができます。そして将来に、約束の地に入ることができるのです。

そして、もう一つは「、この荒野で死ぬよりは、エジプトに仕えるほうがよかったのだ」と言うことです。これは、自分たちがどれだけ奴隷生活によって苦しんでいたかを忘れてしまった発言です。けれども人間はそのような存在で、たった今、見ているもの、感じているものによって全てを判断する性質を持っています。私たちは自分の記憶こそが、自分の体験こそが最も確かであると思っています。そして、「神はいない」などと言ったりするのです。けれども、どれだけ自分の心の持ちようによって、一つの客観的事実が都合よく変えられてしまいます。私たちの以前の生活は次のようなものです。「エペ 2:1-3 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、かつては、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。私たちもみな、不従順の子らの中にあつて、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」これが、神が私たちに示しておられる、キリストを信じる前の姿です。

13 モーセは民に言った。「恐れてはならない。しっかり立って、今日あなたがたのために行われる【主】の救いを見なさい。あなたがたは、今日見ているエジプト人をもはや永久に見ることはない。14 【主】があなたがたのために戦われるのだ。あなたがたは、ただ黙っていなさい。」

このモーセの呼びかけは、たくさんの良い教えが詰まっています。まず、モーセは、「恐れはならない」と言いました。恐れや不安は、私たちのすべての思考と行動に影響を与えます。これは神の愛と相反するものです。「Iヨハ 4:18 愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。恐れには罰が伴い、恐れる者は、愛において全きものとなっていないのです。」神の全き愛に信頼しないとはいけません。

そして次に「しっかり立って」と言いました。「立つ」って、とても簡単な行為ですよ。非常に注意してバランスを取るから、立っていることができます。けれども、私たちの心はそのバランスを崩そうとします。落胆すると、その場に倒れてしまいます。恐れると、そこから逃げようとしてしまいます。じれったくなると、今、何かをしなければいけないと思います。そして、うぬぼれたら、紅海が分かれる前に海の中に飛び込もうとするでしょう。けれども、私たちは主にあって立っているのです。

それから「【主】の救いを見なさい」と言いました。イスラエルが自分たちを救うのではなく、主が彼らを救ってくださいます。自分の知恵や力が何もない時にこそ、主がご自分の知恵と力で働いてくださいます。ある人がこう言いました、「人間の窮地は神の契機である。」イスラエルは、「もうこれで私たちは終わりだ。」と思いましたが、実際はエジプトの終わりなのです。

そして、「エジプト人をもはや永久に見ることはない」と言いました。ここの「永久」という言葉が大事です。もう二度と、自分を恐れと奴隷の中に入れることはないのです。エジプト人が海の底で死に絶えます。死体が岸辺にまで上がってきます。これを見て、再びイスラエルを襲ってくる恐れが完全に消え去ります。永遠に救われるのです！私たちに敵対するサタンは、永遠に私たちを陥れることはできません。私たちの古い人が私たちを支配することは完全になくなりました。

そして、「【主】があなたがたのために戦われるのだ」とモーセは言いました。「あなたがたに対して戦われる」と言っていないことに気を付けてください。私たちは、いつも「主が私たちに対抗しておられる。」「主が、私たちを見捨てられた。」と感じてしまいます。けれども、神は私たちの味方なのです。「ロマ 8:31 では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」

最後に、「あなたがたは、ただ黙っていなさい。」と言いました。自分を静めて、主がおられることを認めます。ところが、興味深いことを次に主が言われます。

## 2B 紅海への浸水 15-20

15 【主】はモーセに言われた。「なぜ、あなたはわたしに向かって叫ぶのか。イスラエルの子らに、前進するように言え。」

モーセは、主が必ず救ってくださることを知っていました。ゆえに、まだどのように救われるか知れなかったけれども、信仰をもってそう宣言したのです。それで祈り、叫び始めましたが、主は、「前進するように言え。」と言われます。これはモーセの考えにも及ばないことでした。私たちは祈ることはもちろん大事です。まず祈らなければいけません。しかし、目に見えなくとも、信仰によって前に踏み出す時が必要です。

16 あなたは、あなたの杖を上げ、あなたの手を海の上に伸ばし、海を分けなさい。そうすれば、イスラエルの子らは海の真ん中の乾いた地面に行くことができる。

主は、興味深いことに、「水の中を通らせる」ことを行われます。覚えていますか、ノアの時代の箱舟によって、その洪水の中でもノアとその家族を救いました。そしてヨシュアたちが、約束の地に入る時、その川を堰き止めてそこを渡らせました。後でじっくりと該当する御言葉を見ますが、私たちキリスト者も、水の中に入ることによって、世に対する神の救いを通るのです。

17 見よ、このわたしがエジプト人の心を頑なにする。彼らは後から入って来る。わたしはファラオとその全軍勢、戦車と騎兵によって、わたしの栄光を現す。18 ファラオとその戦車とその騎兵によって、わたしが栄光を現すとき、エジプトは、わたしが【主】であることを知る。」

主は、イスラエルに対してだけでなく、ファラオとエジプトに対してご自分の栄光を現します。モーセとアロンが初めてファラオに会いに行った時のことを思い出せるでしょうか、「主とは何者だ。私とその声を聞いて、イスラエルを去らせなければならないとは。(5:2)」今、彼らが水の中で滅びる時に、主とは何者かを知らせるのです。いずれ、拒んでいる人もイエスが主であることを認める時が来ます。それは救われるために認めるのではなく、滅びるために認めなければいけない時です。「ピリ 2:10-11 それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが膝をかがめ、すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。」この「すべて」には、滅んでいく人たちもいるのです。

19 イスラエルの陣営の前を進んでいた神の使いは、移動して彼らのうしろを進んだ。それで、雲の柱は彼らの前から移動して彼らのうしろに立ち、20 エジプトの陣営とイスラエルの陣営の間に入った。それは真っ暗な雲であった。それは夜を迷い込ませ、一晩中、一方の陣営がもう一方に近づくことはなかった。

荒野での旅を導いていた雲の柱と火の柱ですが、今、イスラエルの後ろ、エジプトの前に立ちました。夜には火の柱になって光を与えられる方が、今は、真っ暗な雲となってエジプト軍とイスラエルの間を阻んでくださっています。これは、キリストが信じる者と滅びる者との間で同時に行われている働きです。「Ⅱコリ 2:15-16 私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神に

献げられた芳しいキリストの香りなのです。滅びる人々にとっては、死から出て死に至らせる香りであり、救われる人々にとっては、いのちから出ていのちに至らせる香りです。このような務めにふさわしい人は、いったいだれでしょうか。」同じ福音の使信ですが、ある人には死に至らせてしまいます、けれども救われる人にはいのちに至らせます。これから紅海の間を渡りますが、同じ水がイスラエルには救いとなり、エジプト人には滅びとなるということにも表れます。

### **3A 紅海の分かれ 21-31**

#### **1B 渡海 21-25**

21 モーセが手を海に向けて伸ばすと、【主】は一晩中、強い東風で海を押し戻し、海を乾いた地とされた。水は分かれた。

この驚くべき御業のためにモーセが行ったのは、「手を海の上に差し伸ばす」ことでした。覚えていますか、彼は四十歳の時に、自分の手で一人のエジプト人を殺しました。けれども、それは仲間のイスラエル人によってパロに知られることになり、そしてパロがモーセを殺そうとして、彼は逃げたのです。たった一人のイスラエル人さえ救い出せませんでした。今は、主から命じられたことを、主が行われると約束されたことを信じて、手を動かしています。これが御霊に導かれることです。主の命令は重荷とはなりません。自分で行うのではなく、主が行われるからです。けれども、私たちはその命令に自分の意志をゆだねていくという責任があります。

ところで、「東風」によって海を陸地とされました。聖書ではしばしば、裁きを行なわれる時、東方からの風を用いられます。なぜなら、それは砂漠地方からの乾燥した熱風だからです。ですから、ちょうどここで行っているのは、ヘアドライヤーで乾燥させているようなものです。

22 イスラエルの子らは、海の真ん中の乾いた地面を進んで行った。水は彼らのために右も左も壁になった。

紅海の分れる奇蹟において世間の本を読みますと、「これは葦の海であり、浅かった。」というのが大半です。けれども聖書自体が何度も否定しています。15章にあるモーセの歌でも、詩篇106篇9節を読んでも、海は深かったことを記述しています。そして何よりも、どのようにして浅い海でエジプト軍全体を溺れ死ぬことができるようにしたのでしょうか？1メートル程度の水深で殺すことができるなら、それこそ奇蹟です！

23 エジプト人は追跡し、ファラオの馬も戦車も騎兵もみな、イスラエルの子らの後を海の中に入って行った。24 朝の見張りのころ、【主】は火と雲の柱の中からエジプトの陣営を見下ろし、エジプトの陣営を混乱に陥れ、25 戦車の車輪を外してその動きを阻んだ。それでエジプト人は言った。「イスラエルの前から逃げよう。【主】が彼らのためにエジプトと戦っているのだ。」

イスラエル人がその中を通れるのであれば、エジプト人も通れるかと言ったらそうではありません。朝が明けた時には、すでにイスラエル人は向こう岸に渡り終えていました。そして、主による火の柱と雲の柱がエジプト軍の上にあります。彼らは自分たちが水に囲まれていることに気づきます。そこでようやく主であることに気づきます。すでに遅しです。このように、神の救いは、贖われた者でしか決して通れないところです。むしろエジプト人には、そこは自分の墓場となるのです。自分が滅びるところとなるのです。

## 2B 水の戻り 26-31

26 【主】はモーセに言われた。「あなたの手を海に向けて伸ばし、エジプト人と、その戦車、その騎兵の上に水が戻るようにせよ。」27 モーセが手を海に向けて伸ばすと、夜明けに海が元の状態に戻った。エジプト人は迫り来る水から逃れようとしたが、【主】はエジプト人を海のただ中に投げ込まれた。28 水は元に戻り、後を追って海に入ったファラオの全軍勢の戦車と騎兵をおおった。残った者は一人もいなかった。29 イスラエルの子らは海の真ん中の乾いた地面を歩いて行った。水は彼らのために右も左も壁になっていた。

イスラエルを救った水が、エジプトにとっては裁きとなりました。同じように、信じる者には救いとなるキリストが、終わりの日に拒む者たちには裁き主とされます。ところで、イスラエルの民にとって、この出来事は主の報復の時でありました。覚えていますか、ファラオはかつてヘブル人の男の子をナイル川に投げ込ませていました。今、自分たちが水の中に投げ込まれて死に絶えているのです。「創世 12:3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。」

30 こうして【主】は、その日、イスラエルをエジプト人の手から救われた。イスラエルは、エジプト人が海辺で死んでいるのを見た。31 イスラエルは、【主】がエジプトに行われた、この大いなる御力を見た。それで民は【主】を恐れ、【主】とそのしもべモーセを信じた。

何と生々しい光景でしょうか！イスラエル人は、主が自分たちを救ってくださったことを、海辺に流れついて来たエジプト人の死体や戦車を見て、目撃しました。もう自分たちを恐怖に陥れる勢力は死にました。このことによって、自分が奴隷として生きていた古い生活が、ここで終わったことを意味していました。もはや、エジプトでの生活のように生きる必要はなく、自由にされたのです。これが、キリスト者に与えられた新しい生活です。

コリント第一 10 章を開いてください、「10:1-4 兄弟たち。あなたがたには知らずにいてほしくありません。私たちの先祖はみな雲の下にいて、みな海を通過して行きました。そしてみな、雲の中と海の中で、モーセにつくバプテスマを受け、みな、同じ霊的な食べ物を食べ、みな、同じ霊的な飲み物を飲みました。彼らについて来た霊的な岩から飲んだのです。その岩とはキリストです。」パウロは、「モーセにつくバプテスマ」と言いました。バプテスマは、「浸す」という意味です。何か染料



の中に布を入れたら、その色に染まります。その媒体と一体化することです。ここでは、モーセが唱えていた主の救いの中に、イスラエルの民が入れられたことを意味します。

同じように、キリストの死とよみがえりに、キリスト者が結ばれる時に、「キリストにつくバプテスマ」を受けるのです。「ロマ 6:1-5 それでは、どのように言うべきでしょうか。恵みが増し加わるために、私たちは罪にとどまるべきでしょうか。決してそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるでしょうか。それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。私たちがキリストの死と同じようになって、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるからです。」古い人、罪に支配されている古い人は、キリストが死んで葬られた時に、共に死に葬られました。そして水から上がって来る時に、キリストが甦られたように、自分に新しい命が与えられました。ですから、紅海での彼らの死は、古い生活の死を意味していました。

また、紅海の水は、神の裁きのしるしでもありました。ファラオに対する裁きとなりましたが、キリストが十字架で死なれて甦られた時に、その働きは悪魔に対して裁きを下すことになりました。「ヨハ 16:11 さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。」「ヘブル 2:14-15 そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。」こうやって、神は悪魔が無力化されたことを教えてくださっています。

罪から自由にされています、私たちはただそのことを認め、そして主の命令の中に生きるのです。これから荒野の旅を見て行きますが、それでも失敗します。彼らはエジプトに帰りたいといってしまいます。それで滅んでしまうのです。ですから、大事なのです。エジプトから救われたのだ、エジプトは死んだのだ。つまり、この世にいた自分、罪の中にいた自分は死んでいるのだ。そして死からよみがえって、新しくされているのだということです。